

## 報 雑

### 人 事 異 動

昭和37年2月1日付で次のような人事異動が行なわれた。カッコ内は前職を示す。

研究部第1科長（研究部第4科長）	厚生技官	篠崎信男
研究部第4科長（研究部第4科）	厚生技官	青木尚雄

### 館 所長アジア人口会議準備委員会に出席

1962年2月13日より17日まで、エカフエがorganizer、インドが host country となってボンベイの Demographic Training and Research Centre において、アジア人口会議準備委員会（Preparatory Committee for the Asian Population Conference）が開催され、館 所長は日本代表としてこれに参加した。日本のほか、セイロン、ネパール、バキスタン、フィリピンおよびシンガポールの各国より各1名、インドより2名、国際連合、エカフエ、国際労働機構、ユネスコ、国際人口学会、および上記 Demographic Centre より各1名、インド国内協力機関より2名の代表が参加し、合計16名の委員によって、14項目にのぼる議題（会議の目的、会議の組織、代表派遣の処置、その他）が審議された。アジア人口会議は1963年12月に10日間の会期でニューデリーにおいて開催の予定となった。

### 昭和37年度調査研究項目の決定

年度初頭における会議の結果決定をみた昭和37年度の調査研究項目は次のとおりである。

#### 昭和37年度人口問題研究所調査研究項目

（昭和37年4月1日）

少産少死の人口動態はほぼ戦後人口の基本的体質として定着したが、この体質の変革に伴う人口の構造変動は、一方には中・高年人口層の激増という形で、また他方には、労働力人口の地域的ならびに職業的配分関係の急速な編成替えの必然性として、わが国人口問題をいよいよむずかしい局面に対峙させようとしている。最近の高度経済成長下に引き起こされた労働力不足の声や国内人口移動の激化は、今後の人口に要請されるその社会的再編成がいかに急激かつ大規模なものとならねばならいかを実証するに足るものであろう。またこのような社会的激動期には、当然に人口の社会的<sup>と</sup>う<sup>た</sup>も放置できない問題となってくるであろう。人口問題審議会においても、雇用問題を中心とするわが国人口の全般的な現状分析や人口資質の向上改善方策などに腐心しつつあるが、本研究所においても人口対策樹立に必要な基礎資料の作成を主眼とし、特に以下の諸点に本年度研究の重点を置いて、わが国現下の人口問題の理論的ならびに実証的研究を行なう。

- 1 わが国人口の推移傾向の追跡と検討、特に差別出生率の動向に関する研究
- 2 技術革新下の雇用問題、特にその需給構造の実態に関する研究
- 3 人口の大都市集中と人口移動の実態に関する研究
- 4 人口資質、特に「人間能力」変動の実態に関する研究
- 5 世界の人口問題の動向、特にエカフエ地域諸国に関する研究